みんなと倶楽部

My hometown Kaketsuka

MINNATO CLUB 掛塚 ESTD.2016

第12号

P1 佐久間見学

P2 ようこそ！ 造船の町、大湊からの訪問団

P3 帝国館調査 其の参

P4 ちょっとい～け？ 大場きよ子さん（新町）

佐久間へ・・・

津倉家の持山を見学

みんなと倶楽部・掛塚12月の見学会で、掛塚湊と縁が深い旧佐久間町を訪問しました。

天竜川に沿って国道152号線を北上し、佐久間ダム方面に分岐して大井橋を渡った西渡（にしど）地区が最初の見学地。ここは水窪川が天竜川に合流する地点であり、かつては水窪川の上流で伐採された杉や檜などの木材を筏に組み立てる作業場があった場所です。山影を映し緑色に輝く水面が、最盛期には丸太で埋め尽くされていたのだそうです。

この後、江戸時代に公文大庄屋として佐久間村を治めた御室（みむろ）家屋敷、二本杉峠の根府川石の石碑を見学し、ホウジ峠にある「佐久間民俗文化伝承館」へ。

ここでは、佐久間の語り部「やまんばの会」の方から、こわ～い民話を聞かせていただいたり「野田やまびこ会」の美味しいお蕎麦と名物「とじくり」（米、大豆、蕎麦粉で作られた団子状の素朴なお菓子）をいただいたり、NPO法人「歴史と民話の郷佐久間を守る会」の奥山代表から歴史遺産を活用した地域の活性化についてのお話を伺ったり、内容の濃いお昼のひとときでした。

そして、東京から駆けつけてくださった津倉幹雄氏の案内で、ホウジ峠から林道を上り、津倉家の持ち山を見せていただきました。

「林業の経営が成り立たなくなって、山が荒れてしまっている」と、あちらこちらで耳にしますが、ここ津倉家の山は、今も管理人さんの手によってしっかりと管理されています。「天竜美林」という言葉にふさわしく、まっすぐ伸びた檜が整然と並ぶ姿は壮観でした。

伐採した木を河原に下ろし、そのまま川の流れを利用して運んだのは昔のこと。今は索（さく＝ケーブル）で中腹にある山土場（やまどば）と呼ばれる作業場へ運び上げ、そこでトラックで搬出しやすい寸法に切り揃えます。そして、掛塚を経由することなく出荷されていくのでしょう。

佐久間といえば、小学校の遠足で佐久間ダムに来たっきり。とても遠いところのように感じていました。

その昔、天竜川の上流から筏で運ばれた木材は、木挽（こびき）たちによって材木として加工され、掛塚湊から船で江戸などに出荷されていった・・・という、伝え聞いた「知識」はあったものの、「上流」のイメージは曖昧なものでした。

この日、掛塚とのつながりを考えながら巡った上流の町から川下の方向を眺めてみると、木挽や荷役人足や廻船問屋の人々が忙しく動き回る、往時の掛塚湊の様子が目に浮かんできて、まるでタイムスリップしたような一日でありました。

（記事　須田明広）

佐久間の語り部「やまんばの会」

津倉家の山

中腹にある山土場（やまどば）

ちょっとい～け？

温故知新！掛塚を知る「にーさ・ねーさ」の方々に、掛塚生まれの主婦二人組（のりこ&さゆり）がインタビュー。今回は、新町の大場きよ子さんにお話を聞いてきました。

大場きよ子さん 94歳（新町）

―節分と七五三には・・・

私らが子供の頃は豆まきって言えば膝上ぐらいに雪が降ったの。友だち同士でそこらじゅうに拾いに行くにも着物が雪で真っ白になって。当時はお金の無い時代だったけど「豆まきをしないといけない」というのがあったんでしょうね、派手やかにお菓子とかいろいろ撒いたですよね。

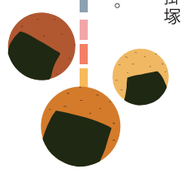
七五三には貴船神社でも撒いただよね。近所に振りそでを着てる子を見つけるとみんな行列になって貴船神社までついて行っただよ。神主様の御祈祷が終わると親戚の人達が（濡れ縁に）上がっておミカンからお菓子から、紙で包んでひねったお金をすごく撒いたの。10軒あれば10軒が撒いたもんですごく時間もかかってね。動くと場所が無くなっちゃうもんでずっと待ってただよね。境内は子供から大人まで人でいっぱいになって、それが楽しみだったね。

―おこづかいなんてない時代、でも・・・

小学生の四年の時には友だちと浜松に行くにもバスのお金なんてないもんで歩いて行っただよ。松菱に行けば欲しいものばっかりで、でもグルグル見て回るだけ。誰一人として一銭も持ってないだもん（笑）。それでも「今度の日曜は浜松に行こう」っていうと楽しみでね。道中、友だち同士で話しをするのが楽しかっただね。当時は余分な食べ物なんか置いてある家はなかったもんで、昼を過ぎて家に帰ったって「もうなんにもない！（食べる物）」ってその一言だったね。おこづかいなんて無いから、いつも学校から帰るとかばんを放って親戚の家の子をだますだよ。（だます＝あやす・子守）そうすると一銭とか二銭をくれる。あの頃はそこらじゅうに一文商い（いちもんあきない）っていうのがあって蟹町にも4軒あってね。四角いガラスの瓶に蓋がしてあって、せんべいやザラメのついた飴玉が入っててね、「これ頂戴」って言うと店の人が出してくれるの。一銭を持って行くとせんべいが一枚か二枚買えたね。

―宮大工のお父様と女中の雪姉（ゆきねえ）

津倉さんは父親ら宮大工の衆が集まって造ったの。いい材木を使っていてすごい立派なお家だったね。あんな時代でも10時と3時にはおやつが出るんだけど、大工さんたちはお酒を飲むからお菓子を食べないの。大工さんのお弁当箱を女中さんが綺麗に洗って、残ったお菓子をその中に入れて自転車の後ろに縛り付けて「ご苦労様でした！」って持たせてくれる。その時津倉さんで女中をしてたのが小学校1年生ぐらいだった「雪姉」でね、絣（かすり）の小袖を着て赤い腰巻をちらっと出して、頭を二つにチョンと結ってねぇ。籠を持って「とんや」に買い物に行くのがとにかく可愛くて。今でも忘れられん思い出だね。



敷地で25年間営んだお好み焼き屋「さつき」

現在 娘さんと掛塚にお住まいのきよ子さんは、中学時代（高等女学校）を満州で、ご結婚されてからの二〇年余りを朝鮮（韓国）で過ごされました。たくさんの出会いと、私たちには想像も出来ない程の悲しい出来事をいくつも乗り越え、戦中戦後の激動の時代を生きてこられた女性です。今回はたくさん伺ったお話の中から小学生時代と満州から掛塚に帰ってきた頃のお話を掲載させていただきました。

［取材・記事 のりこ&さゆり］

カメラを持った通りすがりの大学生にお願いし駒場の灯台前で友人と

予告

第二回「掛塚寄席」4月7日（日）開催します

楽しい抽選会もあるよ！

磐田出身の噺家 真打 三遊亭圓王さんと三笑亭可風さんを迎えて本町の西光寺さんにて開催します！落語家お二人の楽しい噺をご堪能下さい。

チケットの購入方法や寄席の詳細はポスター、チラシ、回覧板等でご案内します。

前売券　大人 1,800 円・小中 500 円 / 当日券 大人 2,000 円・小中 500 円

同日、旧津倉邸・旧郵便局の公開、掛塚町あるきも同時開催！

噺家 真打 三遊亭圓王さん

噺家 真打 三笑亭可風さん

みんなと倶楽部 My hometown Kaketsuka

MINNATO CLUB 掛塚 ESTD.2016

●会　長　池田藤平

●事務局　名倉慎一郎、大沢利行

●編　集　靄田茂巳、山内紀子、鈴木小百合 須田明広、長谷川 智

お問い合せ

ご興味のある方は下記までご連絡ください！

☎0538-66-4775（名倉）

ようこそ！造船の町、大湊からの訪問団

平成最後の12月13日午後、三重県伊勢市大湊（おおみなと）町から地元の歴史を研究している吉岡雄毅さん、強力（ごうりき）修さん、伊藤政光さんの3氏が歴史文書館を訪ねて来られました。吉岡さんは、以前から同じような歴史を持つ掛塚に興味を持たれ、文書館とは情報を交換していましたが、南海路の要港だった下田や木造帆船建造地の戸田を見学した帰りに、掛塚湊の跡を見学したいと立寄ってくれたのでした。

大湊は、紀伊山地の大台ケ原から伊勢湾に注ぐ清流、宮川（長さ91キロ）河口の三角州にできた町。神道の聖地・お伊勢さん（神宮）の地元だけにその歴史は古く、諸記録によると、大和、飛鳥時代に神功皇后が新羅に遠征した折、軍船の用材を提供したとされるのを始め、鎌倉から江戸期にかけ、軍船や商船、漁船を造る日本屈指の造船の町として栄えました。天竜川の河口にあり、上流の森林資源の集材地となり、造船業や回船業で栄えた掛塚と多くの点で共通しています。戦後も、鉄鋼、木造の漁船、商船などを建造して繁栄しましたが、日本造船業界の衰退と共に大湊の勢いも衰え、近年は寂しさを増しているようです。

歴史文書館では、名倉、斉藤、夏目がお話を伺い、情報を交換しました。大湊の3氏は、特に造船について造詣が深く、大湊の造船史に関する論文についてご教示いただくとともに、大湊を紹介した『わが町大湊』などの著書をいただきました。

その後、現地に赴き、掛塚の現在をご案内することになりました。

まず最初に訪れた貴船神社では、宮司の関正胤さんの案内で、神社拝殿に掲げられた資料を見学し、大湊造船所で建造された「安全丸」（明治33年進水）の設計図が目に止まると、関さんから「この奉納額は、東京や大阪の造船研究所から調査、拝観の依頼がある貴重な資料です」との説明があり、3氏は郷土の先輩の偉業に敬服している様子でした。

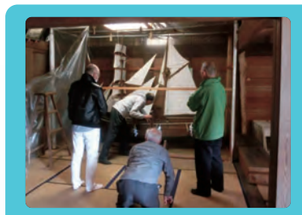
また、明治30年（1897）9月の大祭の折、地元有志が航海の安全を祈って奉納した2本マストの西洋式帆船「敬神丸」の模型を見て、大きな関心を寄せていました。境内に降りて宝蔵を開けていただき、そこに収納されている神輿の中に、御神体を載せるフタナリ船の模型が鎮座している様子を見て、造船の歴史に詳しい3氏とも興味深々でした。

続いて、掛塚湊の代表的廻船問屋である旧津倉邸を案内し、貴重な木材を豊富に使った建物を熱心に見学されました。

関さんは「大神宮の地元から貴船神社を参拝いただき有難いです。天竜川沿線には貴船神社が29社あるが、河口にある掛塚は、昔から遠州灘を通じて伊勢、大湊と交流があったのだと思います」と感想を述べ、オランダに出張した際、アムステルダムの博物館で明治時代の日本地図に「カケツカ」が載っているの見付けて感激した思い出を話されました。また、「これからは、町民の皆さんが健康で安全に暮らせるよう祈願するとともに、掛塚が地域の歴史や伝統文化を支える拠点として発展するよう努めていきたい。また、この訪問を機に伊勢大湊との交流が一層深まってほしい」と話されました。

大湊の皆さんの来訪により、掛塚と大湊との関係に改めて気づかされ、掛塚地域の振興について考えるいい機会を与えていただいたと思います。いつか「みんなと倶楽部」の有志が伊勢大湊を訪問し、親交を深めることができたらと思います。

記事 夏目郁夫



関さんより「安全丸」の説明をしていただきました。

「安全丸」の設計図を載せた奉納額

帝国館（掛塚劇場）調査 其の参

今回は地元の人たちで盛り上がった帝国館での思い出を調査！実際に舞台に上がった蟹町の「たばこ屋」鈴木勇さんにお話をお聞きしました。

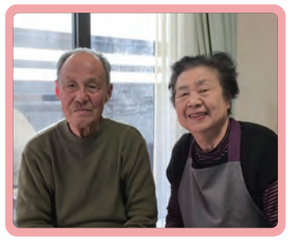
― 帝国館の舞台で踊られたとか？

終戦後、帝国館では映画や芝居が無い日に各自治会（青年団）の代表が集まっていろいろやったんですよ。

新田町（しんでんまち）のカーボー（かずおさん）は歌がうまくてね、演歌をよく歌っただよ。浅田屋（井熊さん）の長男は浜商の音楽部だったもんで邦楽が好きでねぇ、あれはギターだったかなぁ。（かずおさんも井熊さんも）帝国館の舞台をやって彼女を仕留めたんじゃないかな（笑）。バンドをやったりドラムをやってた人もあったよ。

僕は「旅姿三人男」をね、蓄音機でレコードを流して踊ったんですよ。その時に一級上の大場きよ子さんに踊りを教わったんです。きよ子さんは踊りが上手かったねぇ。優しく教えてくれましたよ。

人前で踊るのは面白くて、恥ずかしいとかは無かったね。踊りながら花道を通って舞台に上がって、最後は得意な顔して帰って来たね。人前で踊るのが好きだったんですね。お袋が言うには子供の頃から「おっちょこちょい」で授業中に分かりもせんに手をあげたり、「出たがり」で学芸会で自分から手をあげたり、そういう性格だったらしいです（笑）。



■ 蟹町 鈴木 勇さんご夫婦

練習は夜、自治会ごとに公会堂とかで練習してね、本番の帝国館は誰でも見に行けたよ。他に劇場がないからね十束や袖浦の衆もやりに来ましたよ。賑やかかったですよ。当時は他に遊びも無くて、そんなことしてはみんな楽しんでおったんです。

― 奥様の地元、草崎では・・・。

私が小学生の時、草崎のお宮でも素人芝居をやったのうんと華やかだったに。近所の顔見知りが役者になってやるもんだからね、余計に楽しくて、すごくワクワクしたの。

― 当時、踊りの先生として掛塚だけでなく白羽や十束、袖浦、川西からも引っ張りだこだった大場きよ子さん。

（次ページ、ちょっといいけに登場）

そのきっかけとなったのは、きよ子さんが帝国館で踊った「赤城の子守唄」でした。人形ではなく知人宅の子を背負って踊り、曲の終盤「泣くんじゃない・・・」というきよ子さんの台詞にまるで合わせたかのように背中の子が泣きだし、会場は割れんばかりの拍手に包まれたそうです。

当時は他に娯楽もなかったので青年団が中心となりそれぞれの地域で芸を磨き楽しみを作っていたんですね。十束や袖浦の方達が帝国館で披露したり、御仮宮や白羽神社などで舞台を作って披露することもあったそうです。そしてそれは子どもから大人までたくさんの人達の楽しみになっていました。

私たちも地域の皆さんにワクワクしていただけるようなイベントで掛塚を盛り上げていきたいと思います。

今年もやります！いじゃまいかけつか！

4月7日（日） at.旧津倉邸・旧掛塚郵便局・西光寺

磐田の「みなみ～ず」による懐かしのフォークソングのライブもあるよ！

内名出身のシンガーソングライター遥奈さんのライブやります！

❶ 掛塚まちあるき（出発 貴船神社）
●コース
貴船神社～西光寺～旧津倉家～林家～つるや～水路跡～竜泉寺～旧郵便局～旧津倉家

❷ 旧津倉邸公開と展示「掛塚湊の歴史」・庭園の公開（at.旧津倉邸）・・・法多山の団子の販売、しおさい竜洋さんの出店

❸ 遠州伊豆石の蔵写真展（at.旧掛塚郵便局）
写真展「遠州・伊豆石の蔵」・ミニ講演会「伊豆石の蔵と掛塚」を開催します。

❹ 第2回 掛塚寄席（at.西光寺）
美味しい食べ物屋台や横町の皆さんの手作り小物の出店やミニライブ開催！
フランスの鶏「プーレノワール」の焼き鳥、芋研の「大学芋・芋けんU」を販売予定！！
※出店内容、イベント等の内容は変更になる場合もございます。